

ユニセフ兵庫ニュース
Wish

世界の子どもたちのために

vol. **64**
2021年5月号



オンラインでもつながったユニセフのつどい。

CONTENTS

特集 EVENT REPORT
2-5 第19回 **ユニセフのつどい**

6-7 **活動ファイル**
2020年12月～2021年4月
8 **お知らせ**

特集

EVENT
REPORT

第19回

ユニセフ のつどい

Unicef Festival

世界のともだちと
心をつなごう



「ユニセフのつどい」は、子どもたちの未来を考える兵庫県ユニセフ協会が主催するお祭り。

今年は、感染症対策を講じたうえで3日間に分散し、6日は会場で、7日はオンラインで、13日は会場とオンラインで、それぞれ開催しました。

新型コロナの中でも、その時々最善を届けたいと思いつけたこの一年。そしてこの3月に“ユニセフにつどい”ことができたのは、これまで以上にみなさんのご協力があったからこそ。感謝の気持ちを込めて、3日間のつどいの様子を報告します。

Event Data イベントデータ

3月6日(土) 会場 コープこうべ生活文化センター

参加者 48人

■ワークショップ 平和を願う絵本『アネモネ戦争』語り手 松田素子さん

■パフォーマンス 神戸市立なぎさ小学校合唱部

3月7日(日) 会場 オンライン

参加者 48人

■オンラインミーティング

活動紹介リレートーク&ワイワイ交流会

参加団体 明石高専防災団 (D-PRO135*)、アジア女性自立プロジェクト (AWEP)、オモニ会、早川千晶さん、ネパール虹の家、ルワンダの教育を考える会、ミャンマー関西

3月13日(土) 会場 コープこうべ生活文化センター&オンライン

参加者 96人

■オープニング 兵庫県ユニセフ協会 2020年度活動&募金報告

■レクチャー 子どもたちを取り残さないように～ベトナム・東日本大震災でのユニセフ活動～講師 安田直史さん

■東日本大震災から10年「福島いま」

写真撮影・収集・キャプション

工藤史雄さん (浜通り医療生活協同組合組織部)

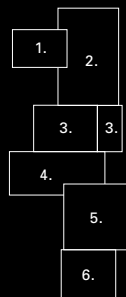
■パフォーマンス 神戸朝鮮高級学校 舞蹈部&吹奏楽部

主催 兵庫県ユニセフ協会

後援 (公財)兵庫県国際交流協会、兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、JICA 関西、兵庫県子ども会連合会、コープこうべ

協賛 神戸 YMCA、神戸 YWCA

協力 凸版印刷株式会社、株式会社ジーエークロッシング



- 6日のワークショップで感想を語り合う参加者。
- 民族の心を大切にしながら歌い踊り奏でる神戸朝鮮高級学校の生徒たち。
- 神戸市立なぎさ小学校合唱部の子どもたち。今回は「がんばれ!がんばれ!」「しあわせ運べるように」を歌った映像での参加となりました。
- コロナ禍でリアルに集えない今、オンライン上でたくさんの人と出会い交流しました。
- 会場で話される安田さんの姿はオンラインでの参加者にも届きました。
- 絵本『アネモネ戦争』の朗読をする松田さん。

ありがとう
ございました
募金報告

◆伊藤ハム株式会社

1300万8643円
子ども未来プロジェクトほか

◆生活協同組合コープこうべ

1595万5321円

新型コロナウイルス緊急募金ほか

◆コープこうべユニオン

50万円

職員のみなさんから

LECTURE

近畿大学社会連携推進センター教授・医師。大阪大学医学部、ジョンズ・ホプキンス公衆衛生大学院卒。外科医として臨床医学に従事した後公衆衛生を学び、国立国際医療センター、JICAで感染症プロジェクトの支援を行う。2005年からユニセフ職員としてミャンマー、ベトナム、タンザニアの保健、衛生、HIV対策、母子保健対策に関わる。2016年から現職。

ただし
安田 直史 さん



講演会

子どもたちを 取り残さないように

—ベトナム、東日本大震災でのユニセフ活動—

今回の講演では東日本大震災でのユニセフの活動と、ベトナムに代えて緊迫した状況のミャンマーについてお話を伺いました。

東日本大震災での ユニセフ活動

2011年3月11日に起きた東日本大震災。未曾有の災害に対しユニセフは半世紀ぶりに日本への緊急支援を行いました。

ユニセフはすべての子どもの権利が守られる世界を実現するために活動しています。平時時には国への政策提言などをしていいますが、緊急事態になると直接子どもたちに支援することが最優先され、緊急人道支援活動の基準（CCC）を基に活動します。

2011年3月私は緊急援助のため急ぎベトナムから岩手県に入りました。最初は主に生協と一緒に緊急生活支援物資を配布。避



難所や保育園を回り必要なものを聞いて届けました。4月には学校、保育園の再開に向けた支援が始まり、ユニセフは全ての被災児に文具セットを配りました。5月には予防接種や乳児健診など母子健康サービスを再開し、ポスターを目立つ所に貼って知らせました。電気のない所で活動しているユニセフのソーラー冷蔵庫を海外から調達しました。

次は子どもの心のケア。ユニセフは取り残されがちな未就学児を焦点に取り組みました。保育士さん対象に子どもの心のケアの講習会もしました。避難所では子どもが遊べるスペース作り。ユニセフの遊びやスポーツのキットをコペン

ハーゲンの物資供給センターから取り寄せ配りました。プレハブの仮設園舎も作りました。日本は、初動は遅いけど、一旦国の支援が始まると多くの資金と物資が動き出します。ユニセフは未就学児など取り残されがちな子どもに必要な支援をしたのがよかったのではないかと思います。

ミャンマーについで 知って下さい

2月に軍事クーデターが起きたミャンマーは私にとっては第二の故郷のような国です。この国は大国の中国、インドに接し、135もの民族があり、ロヒンギヤの問題のように民族紛争が絶えません。1948年イギリスから独立。1962年のクーデター後に成立した独裁政権は1988年の学生を中心とした民主化運動で崩壊。しかしクーデターを起こした国軍が政権を取り、保健医療・教育などの予算不足や児童労働など子どもの問題が深刻になりました。ユニセフは必要な医薬品やワクチン、教科書などを供給しました。2007年には僧侶を中心に大規模な民主化デモが起き、その後の民主化により子どもを取り巻く環境も改善されました。

しかし、今回の国軍によるクーデターに対し抗議の意志を表すために保健スタッフや教師が職場を放棄。そのため予防接種や妊産婦健

診ができないなど母子への影響が心配です。学校もコロナと教師の職場放棄で閉鎖されています。ミャンマーのことに目を向けて、コロナとクーデターという複雑な人道危機でどのようなことができるのかを考えてほしいのです。

子どもたちを 取り残さないように

誰もあえて取り残そうとするわけではありませんが、子どもたちは声なき存在になりがちです。子どもには遊びなど大人と違うニーズがあり、ユニセフは子どもの声を聞き代弁する役割を果たすべきものです。子どもを救うには、子どもを支える親を、育む地域や社会をつくっていくことが大切です。

東日本大震災から10年。講演に先がけ参加者全員で黙祷を捧げ、講演後には福島県の浜通り医療生協の工藤史雄さんから届いた写真「福島いま」がスクリーンに映し出されました。原発事故直後から今日までの写真76枚。そこには「福島いま」を伝えることが「福島を忘れない」ことにつながり、そしてそれが「原発ゼロ」への道だというメッセージが添えられています。写真は10年という年月の光と影を伝えています。

平和を願う絵本

『アネモネ戦争』



自分だけのアネモネを守るために戦争を始めた王様とその国の人々の物語。

『アネモネ戦争』誕生までのいきさつ

始まりは神戸のギャラリーのオーナー島田誠さんの手元にあった、上村さん作成のたった二冊のアーブック。島田さんはそれを出版したいと強く願い、松田さんに託しました。

美術家の自己表現を超えた「人に伝えたい」という思いが表わされた絵本のひな型を上村さんが作ってきた時、「これは今こそ出すべき絵本だ」と松田さんは思い、そこから出版に向けて始動。メンバー全員が兵庫・神戸の関係者による「チーム・アネモネ」を結成。一般から募ったサポーターと共に絵本を作り上げるプロジェクトが始まりました。そして2020年3月限定版刊行。その後10月にB1出版から普及版も出版されました。長年編集者としてやってきた松

田さんにとっても、こんな生まれ方をした絵本は初めてで、出来上がった時は「本作りの原点に立ち戻ったような新鮮な気持ちになった」といいます。

上村さんは阪神・淡路大震災後のある日、花に救われたことがありました。ア・ネ・モ・ネという名前も音も気に入ってこの花をモチーフに使うことにしたそうです。

完成までの絵は試行錯誤が繰り返され、下絵は全部で2000枚以上にもなったそうです。

絵本の絵は読者の想像力を引き出します。誰かの物語ではなく、読者自身が、言葉をかけ、絵本の中の人々と共にそこに並び、呼びかける人になってもらいたいという意図から登場人物たちはあえて後ろ向きで描かれ、顔は見えません。そこには、これはあなたの物語ですという気持ちが込められ

WORKSHOP

美術家上村亮太さんの初めての絵本『アネモネ戦争』と詩人まど・みちおさんの本『まどさんからの手紙 こどもたちへ』。これらの本の編集者松田素子さんによる朗読と本誕生の経緯や本からのメッセージの話を聞き、感想を語り合うワークショップを行いました。

松田 素子さん



編集者・作家。児童図書の出版社・偕成社で絵本雑誌『月刊MOE』の編集長を務めた後、フリーランスとして絵本の編集を中心に活動。これまでに300冊以上の本の誕生や新人絵本作家の育成に関わってきた。自ら執筆者としても活動し、『ながいながい骨の旅』（講談社）では2019年度児童福祉文化賞を受賞。



<チーム・アネモネ>
青いセーターの上村さんを挟んで左が松田さん、右が島田さん。

ているのです。

「それこそが、『戦争』だったので、バラバラに置かれた椅子、目を合わせることのない人々の影が描かれます。自分たちの無関心や沈黙こそが戦争を育ててしまおうということ

を語る象徴的で深いシーンです。言葉を伝える合図であるのしを上げて、「呼びかける人」が発するのは平和を願う声。「風の娘」という意味を持つアネモネのように、その声は、国や宗教の違いをも超えて風に乗って旅をし、誰かにつながり、育まれていくこと、それがこの絵本の届けたい願いです。

『まどさんからの手紙 こどもたちへ』

童謡「ぞうさん」で知られる詩人まど・みちおさんの晩年の10年間、松田さんは編集者として関わりました。まどさんとの仕事は7



未来をつくる子どもたちへの手紙。

冊。これは、まどさんが84歳の時に母校の小学校に送った一通の手紙を本にしたものです。

本の完成前にまどさんが亡くなられて落ち込む松田さんの元に、「この手紙は私の宝物です」という言葉が届きます。それは東日本大震災後にこの手紙を紹介した宮城・閑上地区の子どもの声でした。一人ひとりに真つすぐに向き合せて発せられた言葉は子どもたちを本気にさせます。この本からまどさんのエールを受け取った子どもは「僕たち期待されているんですね。任せて下さい！」と云ったそうです。

100歳を過ぎてでもあらゆることに驚く気持ちを持ち続け、世界を発見し直し、その理を謙虚に学ぼうとしていたまどさんを、私たちはもう一度、今こそ再発見するべきだ——と松田さんは思っているそうです。

ワークショップでは、「絵に思いを託す」という表現の仕方の大事さを知った「子どもに伝わる言葉を持ちたい」「知らんぷりをしないで、見て感じたら行動できる大人になりたい」などの感想がありました。



絵本になる前のひな型などを手に取って見る参加者。

まど・みちおさん

2014年に104歳で亡くなるまで詩を作り続け、童謡や詩集、画集など作品は多数。1994年日本人初の国際アンデルセン賞作家賞を受賞。

上村 亮太さん

美術家。子どもの頃から空想して絵を描くのが好きで、東京の美術大学に入学。主にモノクロの抽象画を描いていたが1995年以降具象画を描くようになった。

活動紹介 リレートーク & ワイワイ交流会

ONLINE MEETING

コロナ禍でリアルに集えない今、国内外で支援活動を実践している皆さんとすつとながっていたいという思いから、オンラインでの交流会を開催しました。

活動紹介リレートークでは、6団体の方からリレー形式でそれぞれの活動についてお話いただきました。ワイワイ交流会ではZoomの機能を使い、より多くの人と交流していただくために、参加者を8グループに分け、15分ずつ3回の交流タイムを持ちました。海外からの参加者、小学生、東北や四国の高校生、皆さんが新しい出会いを通じてつながり、交流の中では驚きや新たな発見も生まれました。

感想

- 知らなかったほかの団体の活動が知れてよかったです！短い時間でしたがそれぞれの団体の伝えたいことがギュッと詰まっていたって聞きごたえがありました！
- 不安定な社会情勢の中、オンラインで、このような有意義な会を開催いただき、ありがとうございました。まずは、少しずつ知ることから勉強していき、今後自分には何が出来るのかを考えていきたいです。
- 企画は素晴らしくとても楽しく交流できました。

参加団体

NPO 法人ルワンダの教育を考える会

ルワンダ内戦を歴史の教訓とし、「教育は平和と発展の鍵」という理念のもと、教育支援事業を行っています。20年経った今、内戦後夢を持ってなくなっていた子どもたちも、勉強し進学し夢を語れるようになってきました。
<http://www.rwanda-npo.org/>

オモニ会

朝鮮学校に子どもを通わせるオモニ（母親）の会です。オモニ会は学校ごとにあり、保護者や地域との交流を深めるための活動、よりよい教育環境を整えるための活動、子どもたちの学ぶ権利や民族教育の権利を守るための活動を行っています。

早川千晶さん

ケニア在住32年、キベラスラムで貧困に苦しむ孤児のための「マゴソスクール」や困窮した子どもたちが共に暮らす子どもの家「ジュンバ・ラ・ワト」を運営。早朝のケニアからオンラインで、この仕事をしようになった理由やアフリカの魅力を話されました。
<https://www.facebook.com/chiaki.hayakawa1>

ネパール虹の家

2015年ネパール大地震で被災した子どもたちと女性たちのための復興コミュニティづくりと学校教育支援に取り組んでいます。2020年のコロナ禍でも女性たちが米作りのおかげで食べることができ、手仕事から現金収入が得られ、支援の成果を実感しました。
<http://meigen.moo.jp/rainbow-house/>

アジア女性自立プロジェクト (AWEP)

アジアの女性たちが自らの人生に自信を持ち主体的に生きることのできる社会の創造を目指しています。海外ではフェアトレードを、国内では言葉や文化の違いや子育てに悩む外国人女性に寄り添い、相談・情報提供などを行っています。
<https://tcc117.jp/awep/>

明石高専防災団 (D-PRO135°)

防災士の資格を持つ明石高専生が作る団体です。「実は防災って楽しい。」をキャッチコピーに、独自の防災ゲームの開発、地域でのワークショップや出前授業などを通じて防災活動に取り組んでいます。また防災コンテストにも参加しています。
<https://sites.google.com/view/d-pro135/>

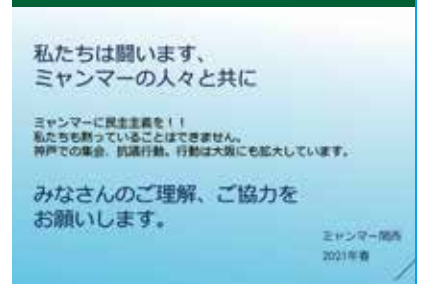
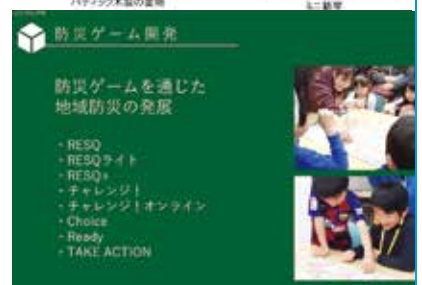
ミャンマー関西

日本とミャンマーの人々の友好を目的とし2014年に設立。日本とミャンマーに住むミャンマー人への教育支援や居場所づくり、日本でのセミナーや写真展等を開催しています。今回は2月に起こったクーデターへの思いなどがつづられた手紙を代読しました。
<https://www.facebook.com/profile.php?id=100009434898875>



オモニ会の活動

▶ ①保護者や地域との交流を深めるための活動



2

オンラインセミナー

コロナの時代、どう生きる? ～心の声聞こえていますか～

日時 2020年12月19日(土)
講師 桑山紀彦さん(精神科医、心療内科医、
NPO法人地球のステージ代表理事)
参加者 59人

※このセミナーは「ひょうごスタイル」推進事業です。

世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス。年末年始を控えた昨年12月にオンラインでセミナーが開かれました。



新型コロナウイルスは人を富士山に例えるとダニ位の小さなものですが、増殖すると大変。手洗いなどの感染予防に加えて大切なのはウイルスの侵入を防ぐ粘膜とウイルスから体を守ってくれる防御システムの免疫の働きを強めることです。マスクはウイルスの飛沫を防ぐだけでなく乾燥や寒さに弱い鼻やのどの奥にある粘膜を守り、うがいも洗い流すだけでなく血流を促し粘膜を強くします。ワクチンは免疫をより活発にさせウイルスを撃退します。反対に免疫を下げる大きな原因はストレス。誰かに本音を聞いてもらう、運動や趣味で発散させるなど少しでもストレスのない生活を送ることも大切です。

コロナ禍で私たちは不安の中で暮らしています。不安が大きくなると、まるで感染したかのような体調の変化を起こしたり自粛ポリスなどの行為に及んだりします。また子どもへの影響も問題です。ふれあって成長する子どもたちのために感染予防と心の成長のバランスを取りながら前に踏み出すことが必要です。これからはwithコロナ。勝ち負けではなく住み分けて共存することを考えなければなりません。人間社会においてもパレスチナとイスラエルのように紛争が絶えない国々も共存するようになってほしいものです。新型コロナウイルスという世界共通の課題に人類が一つになって立ち向かっている今こそ、国際協調の意味を改めて見直す時期なのです。

質疑応答では参加者から不安な気持ちが多く寄せられました。桑山さんは「感染者数や死者数に一喜一憂しないでみんなで適切な予防対策をコツコツすることが一番大切です。新型コロナウイルスに対してもインフルエンザと同様の付き合い方ができるはずです」と話されました。



Activities File 活動ファイル

兵庫県ユニセフ協会の活動履歴
2020年12月～2021年4月

活動一覽

Activities List

学習会一覽

★来所

月日	訪問先	対象	人数
1月21日	新潟県上越市立大手町小学校 (オンライン)	小学5年	55
2月9日	ESD車座トーク	大人	24
2月12日	赤穂コープ委員会	大人	8

地域活動一覽

月日	イベント名
1月23日	ユニセフセミナー「知りたい、朝鮮学校のこと」
2月20日	ユニセフセミナー「スマホ・ネットの基本は小学生から!」
3月6,7,13日	第19回ユニセフのつどい
4月24日	ユニセフセミナー「面会報告～入管と人権～」

募金一覽

2020年11月～2021年2月

学校・団体名

あいつこの会、AIOすみれ少年少女合唱団、宝塚ボランティアセンター、
共栄火災海上保険株神戸支社、A-Bridge Cup事務局、兵庫県立姫路
商業高等学校 (兵庫県ユニセフ協会関係分 敬称略、順不同)

ご協力ありがとうございました。

1

初めてのオンライン出前学習会

兵庫県ユニセフ協会は、1月21日に初めてのオンライン学習会を新潟県上越市立大手町小学校5年生の皆さんと行いました。水がめを使った水運びを体験し、ユニセフの活動、食品ロスや環境問題・SDGsについて学び考える110分の学習会。子どもたちの生き生きとした表情からオンライン学習の可能性を実感しました。子どもたちの感想の一部を紹介します。(山屋)

- ◎水運びのために学校へ行けないのは不公平だと思う。だから平等になるような地球にしたいと思った。
- ◎世界中で苦しんでいる人に、オンラインでもいいから声をかけてあげたい。
- ◎プラスチックの削減のために協力して家でもあまり使わないようにしていたが、もっと強化していかなければならないと思った。

3

ユニセフセミナー
知りたい、朝鮮学校のこと

日時 2021年1月23日(土)
会場 コープこうべ生活文化センター
講師 金錫孝きむ そつぎょうさん(兵庫朝鮮学園理事長)
参加者 60人

同じ神戸市内に在りながら余り知らなかった神戸朝鮮高級学校。セミナーでは、金さんの講演と、吹奏楽部の生徒さんのメッセージや演奏・コーラスを聞きました。

「皆さまは朝鮮学校のことをご存知ですか？」と語りかけた女子生徒は、「朝鮮学校は在日コリアンが通う学校。神戸朝鮮高級学校は2年前に創立70周年を迎えた歴史ある学校です。11年前に高校無償化から外され、近年では県や市からの助成金も大幅に削減されました。しかし、分かり合えればきっと明るい未来が待っています。そんな思いで今日は演奏します」と話しました。

金さんは、戦前・戦後の朝鮮人が置かれた立場などを話された後、次のように続けられました。

朝鮮学校は母国語を教え民族意識を忘れないために設立された「国語講習所」が母体となっており、色々な困難を経て1955年には各種学校として分類されることになりました。

各種学校は自由度が高く、日本語・英語以外は、日本の教科書の内容をそのままハングル語に訳した各教科と朝鮮の国語・歴史・



地理を母国語で教え、朝鮮民族のアイデンティティを培っています。有名大学への進学者も多く輩出しています。

法整備により過激なヘイトスピーチは収まってきたとはいえ、今もなお人権を無視した言動は続いており、子どもたちは心を痛めています。国連「子どもの権利委員会」は、朝鮮学校が高校授業料の実質無償化の対象外になっていることについて、日本政府に見直しを勧告しています。



4

ユニセフセミナー
スマホ・ネットの基本は小学生から!?

日時 2021年2月20日(土)
会場 コープこうべ生活文化センター
講師 竹内和雄さん
(兵庫県立大学准教授・ソーシャルメディア研究会代表)
参加者 45人
協力 (一社) ソーシャルメディア研究会

コロナ禍の今、インターネットは生活に欠かせないものとして多く使われるようになってきました。利用者の低年齢化や依存状態も増加している現状を受けて、ネットとの付き合い方を大人と子どもで考えるセミナーを開催しました。

講師の竹内さんは学校や政府機関などでネット問題に取り組んでられました。今回のセミナーは竹内さんによるお話と参加者への問いかけによって進められ、ネット問題に関心のある神戸市立渚中学校の生徒たちの生の声を聞きつつ、参加者同士も活発に意見を交わしました。平成30年の調査では、5歳児のネット利用は68%、小学生では85%以上、高校生になると99%が利用しています。動画・ゲーム・SNSなどで1日3~4時間利用する子どもも多く、依存やいじめの他、知らない人と出会って危険な目に遭う被害も増えています。

賢くネットを使うためには、子どもが低年齢のうちに大人と一緒にルールを作っていくことが大切です。まずスマホを使い始める前に親子で納得できる話し合いをしなければなりません。親は子どもの意見を聞いて全部を受け止めること、子どものいない所で大人の意見を合わせておくこと、心配をしている親の気持ちや考えを子どもに伝えること、これらのステップが必要です。大人と子どもが話し合ってルール作りができる関係があれば、困った時にも相談ができます。また危険なアプリなどの新しい情報も得て、定期的にルールを更新していかなければなりません。

会場での意見からは、中学生も大人もSNSでのコミュニケーションに気を使っていることや、容易にネットへの依存や現実逃避になりうることもわかりました。今やネットの問題は社会全体、そして心の問題になっているのです。

ユニセフ募金 *Donations For Unicef*

■ 通常募金

通信欄記載事項	振替口座	手数料
K1-280 兵庫	00190-5-31000	免除

■ 緊急・復興募金

	通信欄記載事項	振替口座
ロヒンギャ難民	ロヒンギャ K1-280 兵庫	00190-5-31000
シリア	シリア K1-280 兵庫	00190-5-31000
アフリカ栄養危機	アフリカ K1-280 兵庫	00190-5-31000
自然災害	自然災害 K1-280 兵庫	00190-5-31000
人道危機	人道危機 K1-280 兵庫	00190-5-31000
新型コロナ ウイルス	コロナ K1-280 兵庫	00190-5-31000

*共通口座名義：公益財団法人 日本ユニセフ協会
*手数料免除

モバイルユニセフ・ クレジットカード募金

モバイルユニセフのクレジット
カード募金ならいつでもどこ
でも、気軽に募金ができます。



<https://www.unicef.or.jp/mb/bokin.html>

Wish ユニセフ兵庫ニュース vol.64

ユニセフ兵庫ニュース Wish

2021年5月発行

発行：兵庫県ユニセフ協会

住所：〒658-0081

神戸市東灘区田中町 5-3-18

コープこうべ生活文化センター 4F

電話：078-435-1605 (平日 10:00 ~ 16:00)

FAX：078-451-9830

E-Mail：h-unicef@kobe.coop.or.jp

●最新の情報はホームページで

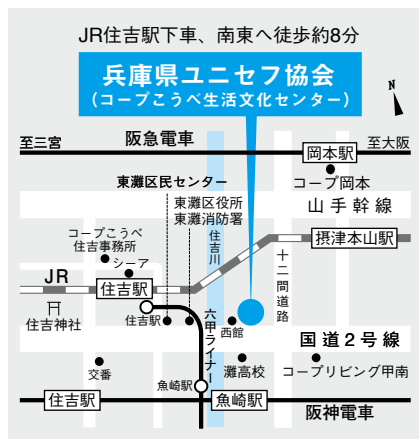
<https://office-bit.com/unicef-hyogo/>

兵庫 ユニセフ

検索



●兵庫県ユニセフ協会への案内図



Join Us 主催イベント

豊かな海と未来を考える 2021 ～大蔵海岸クリーン作戦～

日時 5月15日(土) 14:00 ~ 15:30

場所 大蔵海岸 (明石市)

定員 40人

締切 5月12日(火)

共催 コープこうべ第6地区本部

協力 海と空の約束プロジェクト

※この催しは、ひょうご子ども若者応援団の助成事業です。

私たちの街を考える

日時 6月5日(土) 13:30-15:00

会場 西宮市大学交流センター

講師 小川雅由さん (こども環境活動支援協会 (LEAF) 理事)

定員 40人

ソロモン諸島の首都ホニアラの人々は、JICAの「草の根技術協力事業」の支援を受け、環境学習活動を通じて持続可能な街づくりに取り組んでいます。そこでのLEAFの活動事例から私たちの街について考えます。

夏休みユニセフ子ども教室

「外国コインの仕分け」 & 「なんでやねんすごろく」

日時 8月7日(土) 10:30-12:00

会場 コープこうべ生活文化センター

対象 小学生

定員 15人

「へーえ!」「なんでやねん!」がいっぱい。
楽しく遊びながら考えてみよう!!

新型コロナウイルス感染症の今後の動向により、変更・中止させていただく場合があります。参加ご希望の方は必ず事前にご確認下さい。

参加申込みはホームページ上の
申込みフォームでも受け付けています。

お問い合わせ

TEL 078-435-1605

各日程は変更になることがあります。
詳細はホームページをご覧ください。

参加費
無料

2021 国際理解講座① 取材映像から知る紛争地の 子どもたち ~アフガニスタン、 イラク、シリア、日本~

日時 7月10日(土) 13:30-15:30

会場 コープこうべ生活文化センター

定員 会場 30人 (申込順)

オンライン (Zoom) 50人

講師 玉本英子さん (映像ジャーナリスト、
アジアプレス大阪オフィス所属)



中東地域を中心に20年以上取材を続けてきた玉本英子さんと、戦争は子どもたちに何をもたらすのかについて一緒に考えます。

今後の2021国際理解講座の予定

9月	延岡由規さん (e-Education グローバル事業部)
10月	早川千晶さん (ケニア、キベラスラムで「マゴソスクール」などを運営)
11月	大津司朗さん (アフリカジャーナリスト) 甲斐信好さん (拓殖大学 副学長)

※都合により変更する場合があります。

ユニセフ出前学習会



学習会の講師派遣を行っています。
オンラインでの開催も可能です。
お気軽にお問い合わせください。



ユニセフ ひょうご サポーター

賛助会員募集中
賛助会員となって、兵庫県ユニセフ協会の活動をサポートしてください。お申し込み、お問い合わせは事務局までお願いいたします。

ユニセフひょうごサポーター
入会申込書
unicef